

くまがわ・明日の川づくり報告会 VOL.1 1

開催地：多良木町多良木10区の1

平成19年6月14日（木）、多良木町多良木10区の1において、「くまがわ・明日の川づくり報告会」を実施しました。

里ノ城公民館にて開催された同報告会には、約10名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。

いただいたご意見等並びにご意見等への回答については下記のとおりです。

なお、報告会の時に回答した内容が不十分であったところについては補足しています。

参加者数※

町内	8名
町外	1名

※参加者数は記名者数

住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問	ご意見・ご質問への回答
<p>【河川整備基本方針の説明について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本高水や昔の洪水の例など流量で説明をしているが、算出方法を教えて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本高水のピーク流量は、80年に1回の確率で発生する降雨（人吉地点の場合）を想定し、球磨川流域の過去の流出形態※を踏まえ、全国の河川で一般的に用いられている貯留関数法という流出計算手法で算出しています。 ※流域に降った雨の量や降り方（だらだら等）に伴う川の流量の変化のこと。流域の地形や土地利用により異なる。
<ul style="list-style-type: none"> この地域は高台で浸水の問題で悩んだことが無い。私は水害の体験はあるので被害にあった方の恐怖感分かるが、水害の危険性から離れてしまうと無関心になってしまう。そういう状態で基本高水流量7,000m³/sの説明を聞いても妥当かどうか判断しづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> 国としての説明責任を果たすべく、基本方針の内容及び審議経過等について、地域の方々にご報告するために報告会を実施したところでした。 球磨川の氾濫区域にお住まいでない方におかれても、古くから地域住民の生活、文化と深い結びつきを持つ球磨川の長期的な河川整備の目標等にかかる基本的な方針について理解を深めていただければと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> 親水性を高めることや住民が球磨川とどう関わるかということについての説明が少なく、ハード面の7,000m³/sの説明ばかりであった。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体の河川整備の内容等については、今後策定する河川整備計画で定めることとしています。 その際には、親水性や球磨川との関わりなど、環境整備や河川利用に関するご意見等もお聴きし、河川整備計画や今後の川づくりに活かしていきたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> 流量などの説明は、ダムをつくることのためと聞こえた。この地域では浸水はありえない。ダムが決壊すればここも浸水するかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ダムなどの具体の施設については、今後、河川整備計画の中で検討していくこととなります。
<ul style="list-style-type: none"> 森林の保水力は期待できないとの説明だったが、それではどうすればよいかについて書かれておらず残念。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本高水のピーク流量等の治水計画は、森林の存在を前提としていることから、治水上、河川管理者としても森林の保全は重要であると認識しています。 森林の洪水緩和機能が低下すれば治水計画にも影響するおそれがあることから、関係機関等が連携して、森林の保全に努めていく必要があると考えています。 国土交通省としては、河川事業において間伐材の利用を促進するなど、出来ることから取り組んでいきたいと考えています。

<ul style="list-style-type: none"> 基本高水、計画高水について、住民の疑問があれば見直し・検証することになるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、地球温暖化に伴う気候変動、森林の保水力等に関する新たな知見により、基本高水のピーク流量算出の前提条件が著しく変化することが明らかとなった場合には、必要に応じて基本方針の内容を見直すこととしており、この旨、基本方針にも明記されています。
<ul style="list-style-type: none"> 住民団体の言っている基本高水流量を採用すれば、大掛かりな対策が不要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> これまで様々な場面で住民の皆様等から頂いたご意見も踏まえて、小委員会の議論はなされており、住民の生命・財産を守るべき治水計画としては学会等で十分議論された定説を採用すべきとの考えから、球磨川の基本高水のピーク流量は、全国の河川で一般的に用いられている手法で算出しています。 また、平成18年に川内川で降った雨が球磨川で降ったと仮定した場合の検討や歴史的洪水の検証など様々な検討を行ってうえで、球磨川の基本高水のピーク流量の妥当性を確認しています。 宮崎県の大淀川、五ヶ瀬川では、過去40年程の間に基本高水のピーク流量相当の洪水は発生していなかったにも拘わらず、平成17年にこれを超過する洪水が発生しています。このことから、球磨川で基本高水のピーク流量7,000m³/s相当の洪水は起こり得るものと考えています。 球磨川水系の治水安全度は、基本方針が策定された全国の河川と比較して大きいものではなく、人口・資産の状況から見て、安全度の水準を切り下げてよい具体的な理由はないものと考えています。 具体の対策については、今後、河川整備計画を作成する際に検討していくこととなります。
<ul style="list-style-type: none"> 住民討論集会での議論に結論は出ていない。お互い検証しあう場を持って欲しい。住民団体はそれがないと納得しない。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体の整備内容等を定める河川整備計画の策定にあたっては、必要に応じて関係住民の意見を反映させる措置を講じるよう法律に定められており、今後とも住民の皆様のご意見をお聴きしていきたいと考えています。
<p>【球磨川の環境について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 上流域は気持ち的にも球磨川に背をむけてしまっている。ダムによって利便性は昔よりも高まっているかもしれないが、地域住民と球磨川をつなぐもの、川への親しみにつながっていくところが無い。川と住民とのつながりが深くなればこのような状況も変わるかもしれないので、河川環境の整備・対策をすすめて欲しい。 里の城大橋の下に球磨川に下りる階段があるが、そのあたりを整備する計画はあるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見のとおり、球磨川では、洪水に対する安全性が高まった一方で、昔に比べて川に親しみにくくなっているところがあるというご意見を多くの住民の方々からいただいています。 国土交通省では、人々が河川に親しむことができるよう、地元市町村や住民の方々と連携して、ハード整備のみならず、河川の環境学習、河川清掃や河川愛護活動等のソフト面の取り組みも進めていきたいと考えています。 報告会后、ご発言いただいた方、多良木町役場と一緒に現地を確認させていただきました。当該箇所では多良木町が公園等の整備を行う構想があるとのことですので、国土交通省としても、多良木町と連携して、良好な水辺空間となるよう、住民の方々のご意見も聞きながら、取り組んでいきたいと考えています。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 濁水時には市房ダムからの水が球磨川に流れてこなくなり、悪臭が発生し下水そのままといった状況になる。これは、生活廃水を球磨川に流していることが原因。多良木町でも下水道整備に力を入れて、球磨川をきれいにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 球磨川上流区間の流量が少ないことについては、関係者が問題認識を共有し、安定的な水利用と河川環境の調和のために知恵を出していく必要があると考えており、今後の課題と認識しております。 また、球磨川の水質については、河川管理者による対応のみならず、地元市町村が行う下水道整備に加え、住民の方々の水質への意識向上も重要と考えられますので、今後とも流域一体となって、水質の保全・改善に努めていく必要があると考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ ハードも必要であるが、整備計画でもソフト面の対策、特に景観にも気を配りつつ検討をすすめて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本方針では、良好な河川景観の保全に努めることとしており、今後の河川整備にあたっては、この点に十分配慮していく考えです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 多良木町付近では、通常時でも川が川で無くなっている。川辺川についてもダムを造ったら川が壊される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 球磨川上流区間の流量が少ないことについては、関係者が問題認識を共有し、安定的な水利用と河川環境の調和のために知恵を出していく必要があると考えており、今後の課題と認識しております。 ダムの整備に伴う水質の悪化へのご懸念については、今後策定する河川整備計画検討の際の参考にさせていただきます。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市房ダムが出来たことによって、河川周辺の動植物に変化があったと思う。ダムが全ての原因ではないとは思いますが、調査結果はあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成2年より河川内の環境調査（河川水辺の国勢調査）を実施しており、球磨川であれば幸野溝から下流の動植物の変化等について把握を行っていますが、市房ダムは昭和35年に完成しており、市房ダム建設前に環境調査を実施していないため、ダム建設前後での動植物の状況についてはわからない状況です。
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市房ダムが満杯になって決壊した場合のシュミレーション結果を教えてください。また、川辺川ダムについても決壊したときの被害の想定を教えてください。 	<p>【熊本県回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市房ダムが破壊するようなシュミレーションは行っていません。なお、当日は回答していませんが、県としては、以下のとおり考えております。 ダムが壊れた場合ということですが、実際に兵庫県南部地震や先日発生した新潟中越沖地震においても、震源に近いダムにおいて安全性に関わる被害は発生していないこと、日本で建設されるダムは幾重にも安全性の確認が行われていることなどから、ダムが壊れる可能性は極めて低いと考えています。 <p>【国交省回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ダムなどの具体的な施設の整備については、今後、河川整備計画を策定する際に検討していくこととなります。ご指摘のご懸念については、検討の際の参考にさせていただきます。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国が主体でやっていく部分と住民が取り組むところとあると思うが、住民の中でも無関心であったり、話を聞いても分からない人などが多いのも事実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の河川整備においては、より一層、地域の方々と連携しつつ、球磨川の整備を進めてまいりたいと考えています。 また、河川整備に対する皆様のご理解をいただくために、今後とも地域の方々に機会ある毎にご説明していきたいと考えています。

・施設を整備するときに、造れば利用するだろうという考え方はやめた方がよい。本来は住民からの要望として地域から声がかかるべきであり、国が造ったものを使ってくださいと言っても多分使わない。住民の気持ちが動くようにしていかないとうまくいかない。無関心が最大の問題。

・川や自然とのふれあいの場の確保にあたっては、ハード整備だけでなく、住民の方々と連携しながら、川に関する環境学習、河川清掃、河川愛護活動などソフト面の取り組みも併せて実施していくことが不可欠であると考えています。

また、ハード整備にあたっては、ご指摘のとおり、しっかりと地元住民の方々等のご意見を聴いたうえで、進めていくべきであると考えています。

※ ご発言をそのまま掲載するのではなく、趣旨を変えない程度にまとめさせて頂いています。

※ 誹謗中傷するような発言については掲載しておりません。